

平成 29 年度事業計画

I. 調査研究事業部門

1. 調査研究事業

平成 29 年度に計画する主な調査研究は次のとおりである。

- (1) 嗜好品と人間・社会に関する調査研究
- (2) 嗜好品文化研究
- (3) たばこ史・たばこ産業史研究
- (4) 研究関連情報の整備

2. 研究助成事業

嗜好品等に関する人文・社会科学等の分野の研究を促進し、学術の振興に寄与することを目的として、日本国内の大学・研究機関等に所属する研究者を対象に研究助成を実施する。

3. 普及啓発事業

普及啓発活動は調査研究活動の成果等を広く国民に提供する目的で実施するものである。平成 29 年度に計画する主な普及啓発活動は次のとおりである。

(1) TASC 定期出版物の発行

① 「談」

様々な分野の研究者・有識者へのインタビューを通じて、時代と共に変化する社会の大きな流れを読み解き、次の時代を生きる価値観を模索するための研究誌として、年間 3 回発行する。

② 「TASC MONTHLY」

財団の活動状況報告及び様々な分野の研究者・有識者による、現代に生きる人間及び社会に関わる論考やエッセー等を掲載して毎月発行する。

③ 「たばこ史研究」

大学等研究機関の研究者および在野のたばこ史に関する研究者の論文等の発表の場として、年間 4 回発行する。

④ 「平成 28 年度事業概要」

(2) TASC ウェブサイトによる情報発信

嗜好品研究やその考察を通じて浮かび上がった現代社会の諸問題について有識者の論考・示唆を取り纏め、TASC ウェブサイトに TASC MONTHLY 特別シリーズとして、引き続き情報発信を行う。

II. 博物館事業部門

博物館ミッションおよび平成 31（2019）年度を目途とする博物館中期計画に基づき、多様な来館者の満足度向上および博物館機能の充実・強化を最優先として、円滑かつ安定的な運営を行う。

1. 博物館業務および運営体制の見直し・改善

- (1) 諸施設の運営マニュアルの見直し・改善を行い、質の高い入館者サービスの維持に努める。
- (2) 新たな職場環境下における効率的業務運営体制を確立する。

2. 資料の収集・保管および調査研究活動の充実

- (1) 博物館収蔵庫内における資料整理を進めるとともに、収蔵庫内の環境整備をはじめとする資料の保管体制の確立を進め、博物館全体における IPM（総合的有害生物管理）体制の確立を継続して行う。
- (2) 調査研究活動については、従来からの継続テーマの続行とともに、中長期的な博物館活動に必要な新たなテーマ等を整理し、さらなる情報の蓄積を図る。
JT および JTI 関連文化遺産等に関する調査研究およびデータベース化を進め、積極的な活用についての検討を継続して実施する。

3. 積極的な対外広報活動の展開

- (1) 特別展を中心に、各種イベントの実施により、質の高い情報発信活動を展開する。

【特別展の開催計画】

- ・着物と装身具に見る江戸のいい女・いい男
 - ・第 38 回夏休み塩の学習室
 - ・日本のイラストレーション その歴史とこれから（仮称）
 - ・美の万華鏡 和モダンの世界（仮称）
 - ・ちりめん細工（仮称）
- (2) 屋外広告等により、ロケーション周知の更なる改善を図る。
 - (3) 博物館発信の総合的広報力の強化を図る。

4. その他の活動

職員研修、地域博物館との連携及び博物館実習受入等を実施する。

Ⅲ. 事務所移転統合施策

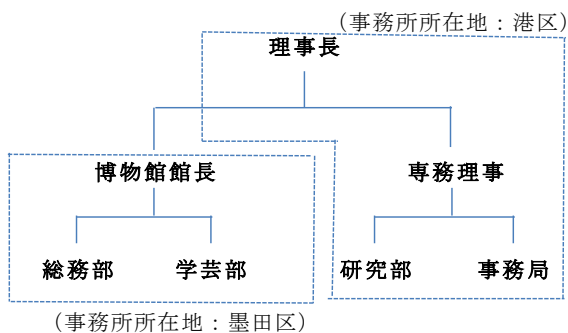
TASC の経営資源をより有効に活用し、効率的な財団運営とコスト削減を通じて、より高品質な調査研究成果を広く国民に提供していくことを目的に、事務所移転統合施策を実施する。

1. 事務所移転統合施策の概要

- (1) 調査研究事業部門並びに事務局を、平成 29 年 10 月を目途に、たばこと塩の博物館内に移転する。
- (2) 調査研究部門が行なっている調査研究のうち、「たばこの歴史・文化」に関わる調査研究については、将来的に博物館事業部門に集約する方向で両部門間の協業体制を強化する。
- (3) 平成 30 年 4 月より博物館総務部を事務局に組織統合し、間接業務一元処理体制を確立する。

2. 組織図

組織図（現状）



組織図（移転統合後）

